

Dogushi

胴串 -どぐし-

特集

竹田人形座 竹田扇之助さんを偲ぶ



Dogushi Vol.32 2021年1月発行 発行：人形劇のまち飯田「運営協議会」制作：NPO法人いいだ人形劇センター TEL:050-0444 FAX:050-0444 E-mail: iida-puppet@misjams.or.jp

掲示板 いいだ人形劇センターからのお知らせ

観に行こう！ 人形劇定期公演

飯田下伊那の市民が日ごろの活動の成果を発表する場として開催しています。

2月21日(日)10時30分開演

- いいだ人形劇センター ユースクラブ成果発表
- わたちゃんのほのぼの劇場「うさぎとかめ」

3月21日(日)10時30分開演

- 東野人形劇あかね「泣いた赤鬼」
- 劇団ふたご座「お日様、お月様、夕立様」
- 人形劇団ころぼっくる「ももたろう」



- 場 所／飯田人形劇場
- 料 金／一律200円(3歳未満無料)
- 定 員／各回80人

※いずれも事前にご予約または、チケットをお求めください

※新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、中止となる場合があります。また、上演劇団が変更になることがあります

- 予約・問合せ／いいだ人形劇センター
☎050-3583-3594

Dogushi

並木 さんぽ

竹田人形館が開館して間もなく訪ねた際「現在失われつつある日本の伝統をこの人形館で感じてほしい」とおっしゃっていた竹田扇之助さん。自らが丹精込めて育てた花を人形館に毎朝生け、すべてに「美」を追求されていました。ご冥福をお祈りいたします。

次号は2021年4月発行予定です。(帆)

表紙画:井原千代子



View of IIDA

飯田市民館前に設置されている「いいだ人形劇フェスタ」参加証ワッペンの看板に、2020年のものが加わりました。今年は8月5日から8日までの日程で予定されています。40年を超す「人形劇のまち飯田」の歴史が続くことを願ってやみません(ワッペンの看板は飯田市営今宮球場の壁面にも設置されています)。

第12回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

ゲント市 (ベルギー)

首都ブリュッセル、アントワープに次ぐ、ベルギー第3の都市でヘントやガンなどとも呼ばれます。都市の名前は、「川などの合流地点」を意味するケルト語に由来します。中世に羊毛や毛織物業で繁栄し、当時はパリに次ぐ大都市でした。石造りの美しい街並みには中世の面影が現在も残っています。

古くから人形劇の伝統があり、ペルケと呼ばれる人形がゲントの人形劇の象徴です。ペルケはイタリアのプルチネラを起源に持つため、赤い模様のついた白い服と帽子というよく似た姿をしています。現在ゲントには「ウルティマトウーレ」と「タブーツアーフ」というプロの人形劇団があり、世界で活躍しています。

また、ヨーロッパ人形劇センターもあり、国内外の様々なグループが参加する国際人形劇フェスティバルを「ゲントフェスティバル」の期間中

に開催しています。この「ゲントフェスティバル」は毎年7月に、10日間にわたって街中でコンサートやパフォーマンスが行われる大規模なお祭りです。



竹田人形座 竹田扇之助さんを偲ぶ

日本伝統の糸操りを継承する竹田人形座を主宰し、平成11年の開館以来、竹田扇之助記念国際糸操り人形館の館長を務めた竹田扇之助さんが、令和2年11月末に逝去されました。永年のご活躍を写真で振り返るとともに、同館の職員で竹田人形座竹の子会メンバーの水上隆さんに思いを寄せてもらいました。



竹田人形座の名コンビ、竹田扇之助(写真左)と竹田喜之助

扇之助師匠の思い出

扇之助師匠は、いまさら云うまでもなく生涯をかけて人形劇を愛し続けた方でした。亡くなった後の話で恐縮ですが、位牌を胸にした妹さんが「人形にも魂がある」とおっしゃっていたのがそのまま扇之助師匠本人の言葉のように感じられました。本人が何度か語った話の中には、生まれる前のことすら出てきたものです。「両親が新婚旅行で遙々東京に出て行ったときのこと、浅草で沢山の人形が売られていて、母は一つ欲しいと思ったが、どれにしよう



うか迷っているうちに父から早く来いと言われ、つい買わずじまいになってしまった。それが悔やまれてならなかった」という母の思いの中で生を受け、幼いころから人形にしか興味を示さない子どもだったとのこと。

また、「本物」と「美しさ、品格」にこだわった方でした。たとえ子ども向けの作品であったとしても、子ども騙しではない、幼いときから本物を見せなければいけないのだといつも言っていました。そうであれば文化は廃れる、受け継がれないのだと。



『サンダーバード』の人気キャラクター、パーカーの人形をつくったジョン・ブランダー氏と

なので、われわれ素人に稽古をつけるときもプロと同じ稽古をつけてくれました。糸操り人形は、手板(手に持つ人形のコントローラー)の高さや角度、微妙な重さの変化や糸の引き具合を体で覚えなければなりません。遣い手は上からですから、人形の足は見えていません。人形の状態を目で見ようとする時も手足の糸を取ろうとする時も、手板の高さ角度が動いてしまつては人形の姿勢が崩れてしまいます。動作に応じた糸取りを素早く行な

うことも求められます。徹底的に稽古して基本を身に着け、「5分でいいから毎日必ず人形に触るようにしなさい」とも教えられました。稽古に手は抜きませんでしたが、しかし優しく、そして努力の成果には大変喜んでくださっていました。アニメやCG全盛の時代ではありませんが、せっかく作り上げ残してくれたこの糸操り人形の芸術を長くつなげて行くことがわたしたちの使命かなと思います。

(水上隆)



「都獅子」を演ずる扇之助師匠



扇之助師匠から胡粉の塗り方の指導を受ける筆者(写真右)

川本喜八郎人形美術館 企画展

「竹田扇之助 海外コレクション」

海外公演の際に収集した人形や、海外劇団との交流で寄贈された人形などを展示します。

日程：3月20日(祝土)～6月27日(日)予定
会場：川本人形美術館3Fスタジオ
開館時間：9時30分～18時30分(入館は18時まで)
入館料：大人400円、小中高生200円
休館日：水曜
問合せ：☎0265-23-3594 川本人形美術館



竹田扇之助記念国際糸操り人形館

開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)
入館料：大人400円、小中高生200円
休館日：月曜、祝日の翌日
問合せ：☎0265-23-4222
※糸操り人形の実演、操作体験ができます

人形たちとつくるコミュニティスポット ほっこり

ほっこりは昨年から始まった人形劇を通じた居場所づくりです。長野県みらい基金からの支援を受けて、休眠預金を活用した事業として3年かけて実施します。人形劇にあまり関心がない方も含めて市民のみなさんに親しめる場所を目指しています。コロナの感染拡大防止に十分配慮しながらの活動はまだまだ思うようには進んでいませんが、交流の輪は少しずつ広がっています。開始当初は準備できなかった駐車場も地域の方のご協力によりお借りす



『さんびきのこぶた』の人形と舞台セット一式(人形劇サークル赤かぶ)



寄贈された小道具や布類

ることができました。地元の人形劇サークル赤かぶさんからは、以前使われていた人形、舞台セット、布などの材料を寄贈していただき、室内の雰囲気も人形たちが増えて賑やかになってきました。いろいろな人形や小道具などがそろってきて、それらを自由に使うことができます。どなたでもお気軽にご参加できますのでぜひお越しください。また人形劇に限らず、さまざまな形でご協力していただける方もお待ちしております。一緒に居場所づくりをしてみませんか。

先日、居場所づくりなどの活動をされている松川町にあるHugさん、伊那市のはみんぐさんがほっこりに来てくださいました。人形劇の特性や私たちの取り組みに関心を持っていただけました。このように共通の課題を持った他地域の団体とも協力していこうと思っています。

第21回 すべての道は 飯田へ通ず

災害時でも心は飯田へ

・ゆうすけ座 阪上 裕治

神戸のゆうすけ座は毎年飯田市へ通い続けて37年です。阪神淡路大震災に遭った1995年(平成7年)も人形劇のため飯田に行きました。地震で家の中は散乱、交通・ライフラインは遮断。家族は怪我もなく無事だったが職場は通常の業務はできず、暫くは避難所や区役所で作業の日々でした。すると各地から多くの避難物資が届き、飯田からもすぐに私たちが気遣うお便りが届きました。



お別れパーティーにて



飯田駅横のアイ・パークにある顕彰パネル。飯田へ通い続けたご褒美だと思っています

生活が落ち着いた頃から私たちは被災した幼稚園・学校等で人形劇上演を始め、8月には人形劇

生活が落ち着いた頃から私たちは被災した幼稚園・学校等で人形劇上演を始め、8月には人形劇

カーニバル飯田に参加。地震をテーマにした演目と「赤ずきんちゃん」を上演し、支援・応援への感謝の気持ちを届けました。会場でも宿泊先でも市内各地でたいへん歓迎していただき、飯田に来てよかったと思えました。瓦礫の中でも絶望せず頑張れたのは、夏に飯田に行くんだという思いがあったからだと思います。

今年は各地で大変な思いをされている方が沢山おられると思います。しかし、どんな災害の時も希望と人形劇で立ち上がってこられたので、きつとまた飯田で皆さんとお会いできると信じています。

次号は「人形劇ファミリーひみぢゃたい」の塚泰文さんです

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から②

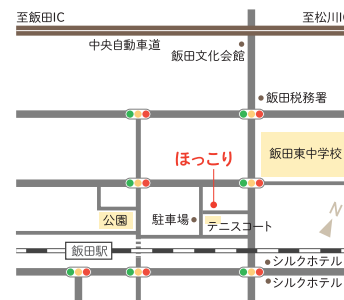
伝統と現代⑤ 人形芝居

竹田扇の助師が亡くなりました。師は自著はないものの、いろいろな雑誌を含む出版物に寄稿等がある。その中で、比較的まとまった文章を書かれているのがこの『伝統と現代⑤ 人形芝居』の「糸操りのメカニズム」(55~70頁)だ。「人形の操作法」の項に「操作法は、いわば、ピアノの鍵盤を叩く場合に似て、どの糸を引けば人形のどの部分が動くという、その関係を指で覚え込んでしまわなければならない」と書かれている。糸操りについてのこうした解説は他に殆どなく、早くに亡くなりました喜之助さんの描いた糸あやつりの図解も添えられていて、竹田人形座のお二人が残したものは大きい。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



学芸書林(1969年)



開所時間: 毎週 火曜 14:00~17:00 (2/23は開館)

: 第1・第3木曜 15:00~18:00

: 第2・第4土曜 14:00~17:00

※1月中はすべてお休みします

参加費: 無料。時間内は自由に入退室できます

場所: 飯田市高羽町2-5-1 (高羽町テニスコート向かい側)



お問合せ
NPO法人いっだ人形劇センター 担当: 木田
☎050-3583-3594
iida-puppet-kida@mis.janis.or.jp
10台程度収容できる駐車場

突撃

Part 26

人形劇の ゲ・ン・バ

新型コロナの影響を受け、人形劇に取り組む子どもたちの発表の場が少ない中でも熱心に活動する飯田市内の小中学生たちの姿があります。それぞれの“ゲンバ”へ直行しました!

ユースクラブ短期講座

人形をつくって、おどる!

昨年11月から中学生を対象に「人形をつくって、おどる!」と題した講座を実施。棒遣いと呼ばれる人形をデザインして一体の人形をつくり、好きな曲にあわせ振付けを考えて踊ってみるといった内容です。

参加するのは飯田市内の中学一年生2人。各自どのような人形にするかキャラクターの設定を考えてデザイン画を描くことからスタート。スチロール球に布をはって頭をつくり、人形の構造を組み立て、衣装を縫い…と集中して行い、年内に完成。1月から操演の指導を受け、曲に合わせた動きをどうするか練習が始まりました。講座の最後は2月の人形劇定期公演での成果発表。どんな舞台になるか楽しみです。



人形が完成しました



人形に慣れるため、曲に合わせて2人で一体の人形を動かす練習をします



デザイン画を見ながらスチロール球に布をはりこみます



デザイン画を描きます



衣装を縫います

学校人形劇の祭典2020

見よう・演じよう・伝えよう!

昨夏、いいだ人形劇フェスタの中止により、飯田市内の小中学校で人形劇に取り組む子どもたちの発表の場が少なくなったことを受け、同フェスタ地区実行委員会が中心となって開催。市内6つの小中学校が参加しました。「お互いの人形劇を観合っ場が過去あまりなく、今回行ってみて大変有意義なものでした。今後も続けられたらと思います。指導者の先生方のご努力に敬意を表します」と、同委員会長の渡邊義昭さん。上演した子どもたちからは「発表の機会をつくってもらえてうれしかった」と感謝の声も。

講師として観劇した、獅子舞や人形劇の活動を行う市内在住の後藤渉さんから、自分たちの上演が観る人にとってどう伝わったか、どうすれば伝わるかなどポイントをしばった講評がされ、子どもたちはじっと耳を傾けました。

※参加は写真紹介のほか3校。鼎中学校人形劇部のん、伊賀良小学校人形劇団笑顔、飯田西中学校人形劇部TheWorld



竜東中学校 人形劇部さらら／かぐや姫



追手町小学校 劇団追手町30／みんななかよし、キツネの王さまのしっぽ



旭ヶ丘中学校 人形劇部SUN☆SHINE／オズの魔法使い



上演と講評を行った後藤渉さん

全人協通信 専門人形劇団事情①

地域劇団の つづやき

劇団員の火
合江好美

芸術文化の灯

新型コロナウイルスの蔓延により、2020年3月初旬から、公演の中止や延期が相次ぐ。いつでも公演ができる様にと、新作作品の作成や、既存の作品の稽古、舞台の見直し、修正等。それはそれで、貴重かつ有意義な時間でもあった。今まで当たり前のようにしてきた工程が、実はとても幸せで、恵まれすぎた事なのだ、改めて思い知らされた年。このままではいけないのだと、人形劇の世界でも、芸術文化に関わる全ての人達に改革の芽を植え付けたのかもしれない。

春の陽射し、桜の季節だけど行き交う人々に笑顔も少なく、人々を避ける。仕方がない事だとわかつている。公園では遊具に黄色いテープが巻かれ、全てが使用禁止。人々を避けるように幼子を遊ばせている親子連

れ。まだ外に出ているだけでもいいのかもしれない。一時、家の中で、テレビやゲームで遊ぶのもよし。それはそれで、楽しい。だが、ずっと家の中で過ごしている子供達が身近にいた。大人もイライラし、その気持ち子供達に移ってしまう。なんとという悪循環。

自分に問う。なんと非力。何をすればいい?何が出来る?人に携わり、乳幼児期の子供達に多く関わらせて貰っているこの仕事。大切な事は何。心身をバランスよく保ち発達させるために必要なものは何。観劇したり、体を動かしたり、子供達の遊びは全てにおいて学びであって、主体性をもって遊ぶ事が重要なものでは。豊かな感性や想像力の発達に繋がっている。大人だつてそう。だから思う。非力でもそういう環境作りをしていこう。

そんな時、いいだ人形劇フェスタに携わる皆様からも同じ思いで動いているとの声。保育園・幼稚園・図書館等の施設の先生方と色々相談しながらの観劇会開催。文化芸術にふれて、物語の世界を客観的にとらえて、表現力や協調性等、様々な効果がみんを笑顔にする。人々を思う行動は、すぐ結果がでなくても、回りまわって、自分をも幸せにしてくれる。目にみえない事だからと、なくす事は簡単かもしれない。継続していく事も今は大変。『堅忍果決』かな。

一般社団法人
全国専門人形劇団協議会(全人協)
人形劇の普及と芸術性の向上をはかり、人形劇表現への理解と支持を広げることがめざし、1997年に発足。51劇団が加盟しています。